

午後Ⅰ試験

問1

問1では、インターネットサービス事業者による総合金融サービスの提供について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(2)は、正答率は平均的であったが、単に“A-Payの利便性”や“A-PayやJ銀行が利用者から高い評価を受けている”といった解答が散見された。これら利便性や高い評価を背景として、市場でシェアを獲得していることが、市場におけるA社の競争優位性となっていることを理解してほしい。

設問4(2)は、正答率が低く、“顧客のあらゆる経済活動をA社サービスの組み合わせで実現、循環させる”などの解答が散見された。A社はサービス開発とM&Aによる事業拡大を将来にわたり継続しながら、A経済圏を確立する戦略である。このため、A-Includeは、継続的なサービスの追加に対応し、順次サービス機能を追加する構想をもつ。A社の戦略を踏まえたA-Includeの将来構想を理解してほしい。

ITストラテジストは、対象となる事業・市場環境を分析、評価した上で、経営戦略の実現に向けたITを活用した事業戦略を策定する能力を高めてほしい。

問2

問2では、地方新聞社におけるITを活用したビジネスモデル変革について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(1)は、正答率は平均的であったが、従来からの特長である“地域に密着している点”だけの解答が散見された。デジタルメディアの双方向コミュニケーションによって、社会価値共創を実現する、H社の役割を理解してほしい。

設問3(2)は、正答率は平均的であったが、“事前に触れ合うプラン”など、観光TM内での旅行プランに関する解答が散見された。ここでは、旅行会社が、体験型の旅行を提案するために旅行前に見込み客と交流する場の提供をH社に期待している点を理解してほしい。

ITストラテジストは、対象となる事業を分析した上で、ITを活用した事業戦略を策定し、推進する能力を高めてほしい。

問3

問3では、旅館のIT活用による業務改革について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率は平均的であった。B旅館の外形的特長を強みとした解答も散見された。教育が行き届いた仲居を中心とした利用客に寄り添った接客という強みによって、リピータを含む顧客獲得につながっていることを理解してほしい。

設問3(2)は、正答率がやや低かった。“AIによってシーン別の問題を作成し、従業員が自己学習できる”などのナレッジベースの機能に関する解答が散見された。ベテラン仲居が暗黙知として保有しているノウハウが形式知として蓄積され、集客力向上に利用できることが本質であることを理解してほしい。

ITストラテジストは、企業の経営課題や業務課題を適切に捉えた上で、自社の強みを生かすITの活用施策を策定する能力を高めてほしい。